



Dr. 健康コラム

新型コロナの罹患後症状について(前編)

城里町国保七会診療所 上井 雅哉

○新型コロナの罹患後症状

新型コロナの罹患後症状(いわゆるコロナ後遺症)とは、新型コロナにかかったあと、感染性が消失したにもかかわらず、他に明らかな原因がなく、

①急性期から持続する症状、②経過の途中から新たに生じた持続する症状、③再び生じて持続する症状、の全般をいいます。

WHOの定義によれば、新型コロナに罹患した人にみられ、2ヶ月以上持続し、他の疾患による症状として説明がつかず、通常は発症から3か月経ったあとも症状がみられます。症状には以下のような特徴があります。

- ・感染した人の10～20%が罹患後症状を経験しているが、原因は不明
- ・急性期の重症度が高かった人や女性に多い
- ・多くの人は時間の経過とともに改善するものの、一部には症状の持続する人もいる

○具体的な症状

全身症状

- ・倦怠感
- ・筋力低下
- ・関節痛
- ・筋肉痛

精神・神経症状

- ・集中力低下
- ・記憶障害
- ・抑うつ
- ・睡眠障害
- ・頭痛

呼吸器症状

- ・呼吸困難感
- ・咳
- ・喀痰(かくたん)
- ・息切れ

その他の症状

- ・味覚障害
- ・嗅覚障害
- ・動悸
- ・下痢
- ・脱毛

これらの症状は多彩であり、他の疾患からきているか除外の必要があることから、かかりつけ医(またはプライマリ・ケア医)は患者さんの訴えに傾聴し、必要に応じて各領域の専門医と連携して対応します。

○日本における研究

2020年1月から2021年2月までに新型コロナで入院した1,066名の追跡調査で、罹患後症状のある患者の大半は時間経過とともに症状が改善しましたが、診断後12か月の時点でも残存する患者が一定程度存在することが示されました。

2022年、国内3自治体で実施された軽度者を含む感染者と非感染者を比較した研究で、

- ・成人で何らかの罹患後症状を有する割合は、小児の2～4倍高かった
- ・感染者が診断3か月後に罹患後症状を有する割合は、非感染者が2ヶ月以上何らかの症状を有する割合の2～3倍高かった
- ・2021年アルファ、デルタの流行期に感染した患者と比較すると、2022年以降のオミクロンの流行期の方が罹患後症状を有した割合が低かったことが示されました。

○今後の課題

時間の経過とともにその多くが改善する傾向にありますが、

- ・残存した罹患後症状の長期的予後
- ・感染した変異株による罹患後症状の差異
- ・罹患後症状のリスク因子の抽出
- ・ワクチンや抗ウイルス薬の罹患後症状の予防効果(…ワクチン接種が罹患後症状のリスクを軽減させるとの報告がでてきているが、不明の病態も多い)

など、明らかになっていないことも多く、全世界で研究が進められています。

参考文献 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引 別冊 罹患後症状のマネジメント(第3.0版)」2023年10月20日